

# 3月の投資戦略と注目テーマ・銘柄

今月は、中国の全国人民代表大会(全人代、日本の国会に相当)の行方を注視することが肝要になると捉えています。タイトな金融環境が続く米欧景気のへの警戒がくすぶるなか、世界第2位の経済大国である中国も早い回復が望まれて、海外への投資が経済的な結びつきの強い日本株の追い風に働くとの期待が高まる展開になると判断。日平均株価(6,500→29,000円)を押し上げる見通しです。

5日に開幕する全人代では、米国との対立や景気減速に根差した社会不安を取り除くことに主眼が置かれ、追加の成長促進策などが打ち出されるとの見方が支配的となっています。「ゼロコロナ」政策で傷んだ中国経済の回復に向けて、中低所得層の消費押し上げや政府投資の拡大、現代的な産業システムの構築などが検討課題となっている模様ですが、習近平体制第3期のスタートに当たるだけにお手並み拝見ということになりそうです。

米国では1月の経済指標が軒並み上振れするなど、根強いインフレ圧力への警戒が再浮上。市場参加者が昨年11月ごろから楽観に傾き、金融環境が緩和してしまったことが少なからぬ影響を及ぼしており、FRBは金融引き締め姿勢を維持することで需要を抑制する必要があるとの認識を一段と強めている模様です。

一方で、国内景気は力強さを増しつつあります。過剰貯蓄がなお残存する下で、感染収束や政府のエネルギー対策の効果などにより個人消費は今後も拡大基調を継続、インバウンド需要のさらなる拡大も景気回復を支えることになりそうです。

外為市場では、ドルの上値が切り上がる展開となっています。FRB高官のタカ派発言がヒートアップする一方、「日銀の政策修正は長期戦になる」との見方が強まったためです。金利差などからは、さらなる円安・ドル高進行余地が残されているように見えますが、米国の2月分の物価・雇用関連指標への反応を注視する必要があると判断しています。

## 注目銘柄一覧(3月)

テーマ	銘柄	レーティング*	更新日
バリュー・高配当	6178 日本郵政	A	23/2/20
	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	A	23/2/3
半導体	6368 オルガノ	A	23/2/3
	6723 ルネサスエレクトロニクス	A	23/2/15
	6963 ローム	A	22/11/4
インバウンド	7532 パン・パシフィック ・インターナショナルホールディングス	A	23/2/9
	3099 三越伊勢丹ホールディングス	A	23/2/6
好業績 グロース	6367 ダイキン工業	A	23/2/9
	7936 アシックス	A	22/12/23

注) 詳細はアナリスト・レポートをご参照ください

◆留意事項◆本資料は、投資判断の参考となる情報の提供のみを目的としたもので、投資勧誘を目的としておりません。また本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に掲載された意見、予測等は、作成日における判断に基づいており、今後、予告なく変わる場合があります。株式投資は、株価の変動リスク、発行会社の信用リスク等のリスクがあります。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。